

高知県 文化賞受賞

山北棒踊り保存会

高知県文化賞受賞

11月3日文化の日、高知会館で行われた「平成23年度高知県文化賞表彰式」において3個人1団体が表彰され、香南市では「山北棒踊り保存会」が受賞の栄誉に輝きました。

文化賞は、高知県の学術、芸術、教育、文化等の各分野に貢献し、輝かしい業績を収めた個人および団体に贈られる賞。山北棒踊り保存会は、昭和38年山北棒踊りが高知県保護無形民俗文化財の指定を受けるにあたり、地域をあげて保存、伝承に取り組むため、保存会を設立。また、平成2年から地域の公民館・PTA・小学校と連携し、小学生に小棒打ちを指導しており、秋の大祭で奉納に参加した児童たちが、成長して保存会に加わるなど、後進の育成にも尽力しています。

さらに、本年5月には「300年記念高知県無形民俗文化財 山北の棒踊り」を発行するなど、300年の歴史を持つ棒踊りを活性化させ、次の世代に伝える中心的な役割を果たしている同保存会の活動が、本県の文化財の保護に寄与している功績は大きいと認められ、受賞に至りました。



保存会会長の徳久俊祥さん(写真中央)

300年の歴史と伝統を継承

山北棒踊りは、今からさかのぼること300年前の1711年、土佐藩6代藩主に補佐役として仕えていた山内規重が、山北村に蟄居(家に閉じ込め謹慎させること)を命じられた際、村の若者に棒術を教えたのが始まりと言われ、今年でちょうど300年を迎えました。

保存会会長の徳久俊祥さんは「長い歴史の中において、幾多の争いや災害があったにもかかわらず、おかげさまで一度も途切れることなく親から子へ、子から孫へと子々孫々継承されてきました。今回の表彰を機に、今ある環境を築いてくれた先人や関係者の皆さまに改めて感謝し、より一層の格式ある伝統文化を育んでいきたい」と話されました。

また、11月18日(金)には浅上王子宮で、秋の大祭が盛大に執り行われました。小雨がぱらつく中、青年や小学生による勇壮で迫力のある棒打ち、また、荘厳な雅楽の音色に合わせて優雅な「浦安の舞」が奉納され、300年の節目にふさわしい秋祭りとなりました。



▲市村太三さんと涼くんによる親子の棒打ち

高知県 産業技術功労表彰

(有)クリエイト・テーマ 代表取締役

徳島和夫さん

高知県産業技術功労表彰

11月23日勤労感謝の日、高知会館で「平成23年度高知県産業技術功労表彰」が行われ、商工業部門で有限会社クリエイト・テーマ 代表取締役 徳島和夫さんが知事表彰を受けられました。今年度の受賞者は各部門から8人。

この表彰は、高知県産業の振興、発展に尽くされた方々の中で特に功績の優れた方および団体に対する表彰。

社団法人高知県工業会より推薦のあった徳島さん。長年にわたり機械部品加工業に従事し、溶接関連のオンリーワン企業として防衛省関連の部品を製造するなど、特殊分野に特化した鋭い感性と技術を持つ企業として業界の発展に貢献したことが認められ、この度の表彰となりました。

大企業に負けない技術力と信頼性

昭和62年6月に同社を設立後、常に技術者の養成を行う「人材育成」に力を注いでこられた徳島さん。従業員に約30種類、90件の溶接関連等の国家資格を取得させ、溶接加工から組立までの一連作業により、高度な溶接技術を活かし工業部品からテーマパークの遊園地遊具など多種多様な分野に及ぶ製作を行っています。

「大量生産では真似できない、緻密な手作業による個々の技術力の高さ、そして、何千分の1mm単位での誤差しか生じない非常に高い精度をもって完全受注生産体制で対応しています。職人が一人前程度の技術ではいかなので、都市部の大手企業に不足している技術力をさらに磨き、信頼性の高いものづくりをしていきたい」と意気込んで話されました。

山奥のみかん畑の中にある、従業員18人の小さな町工場。そこには、大企業にも負けない高度な技術力を備えたプロフェッショナルがいます。従業員への感謝の気持ちを忘れず、そして受賞を励みに徳島さんは、さらに先にある「キラリと光るものづくり」に向けて、情熱と自信を胸に日々邁進しつづけます。



日本は言霊の国だと作家・井沢元彦氏の言です。最近心に残った言葉に、「この数日間、訪日されていたブータン国王の国会における演説でした。それは、東日本大震災に寄せる言葉で、その大意は、「このようにな不幸から、より大きく立ち上がる国が一つあるとすれば、



それは日本であり日本国民であると信じています。そして、私たちは皆さんとともにあります」この言葉を聞いて思わず目頭が熱くなったのは私だけではないと思われまふ。簡潔で力強く情愛にあふれ、そしてなお、高潔優雅である国王者の印象そのままのお言葉でした。まさしく仁愛王の言霊を拝聴したような感慨

言霊

ことだま

ひるがえって大震災以来、わが国のリーダーからは、国王のような胸を打つスピーチではなく、なんとも寡言なものであり

改めてリーダーとして各方面における振る舞い方、そして言葉の重要性を重々認識され、力強い復興と多難な国際

深いものでありました。この感激を新たに私たちも、今一度被災地の支援に立ち上がるべきではないでしょうか。

また、日々のニュースでは各大臣の右往左往する言動と、あまりにも状況をわきまえない失言の数々に失望の連続でした。なぜブータン国王のように、国民を奮い立たせるような言動が伴わないのでしょうか。

情勢を乗り切るための方向性を明らかにされ、表題の言霊の力で、国民に希望と明るい未来を明確に指示してほしいものです。

あかおかの中日



※市内在住者に、「ラム」を書いてもらうコーナーです

文芸

花野句会

夕暮れて次郎が掛かる草の罨 <small>な</small>	森 武司
眠剤の白き一錠秋涼し	影山 公子
昨日まで迷った辻に罨 <small>な</small> ろふ	岸田 房子
地球の上に七十億人曼珠沙華	山本 房
描きかけの画布が一枚秋隣	安丸 秀美
ラムネ玉ころんと気持切り替える	高橋 栄子
青嵐 離職の胸に吹きめぐり	門田みつこ
スニーカー買い替えた日に初音あり	細木 清生
仮装してわたし消す秋ちんどん屋	尾崎 百代

第61回高知県芸術祭

詩部門 文芸奨励賞作品

病室のドアを開けた
鼻へ管を通したまま姉は眠っていた
姉は末期癌で腸が塞がっているという
顔を近づけた気配で
目を細く開けた姉は にこっと笑った
そしてひと筋の涙を零した
私も にこっと笑って涙を零した
姉は聞き取れない声で
「ありがとう」と言った
私は小さく頷きながら
「おかあちゃんに そっくりじゃ」
「娘じゃも」と唇が応えた
私も釣られて 唇で笑った
そのとき鼻の管から
どす黒い血の塊りが幾つか流れ落ちた
甥は首を傾げながら姉の腹を擦った

私はその異常な膨らみに
思わず姉の手を握った
姉の手は意外と滑らかで温かかった
私は周りの身内に
「姉の手を握ったのはこれが初めて…」
と言いつけて思わず絶句し
姉の手を握ったまま嗚咽した
幼子のように嗚咽した
やがて 同じ周期で手を握ってくる姉に
顔を上げた
半眼の姉が にこっと笑った
私は照れながら涙目で にこっと笑った
そして
「小ちゃい姉ちゃん」
と小さく呼んでみた

「手」

野村 土佐夫